

室生犀星 田端転入100年・萩原朔太郎 生誕130年記念

企画展

水魚の交わり

犀星・朔太郎の交友

駆けつけて
くれる
友は
いますか？

駆けつけた ep1
親友・犀星の
家のそばに
住みたいと願
田端に駆けつ
朔太郎。

駆けつけた ep2
朔太郎の詩に
感激し、寝巻さ
のまま駆けつ
芥川龍之介。

駆けつけた ep3
中央亭騒動事件。
喧嘩が始まったと
早合点し、朔太郎を
救援しようとして椅子を
振り回しながら
駆けつけた犀星。



平成28年 平成29年
10/7(金)~1/22(日)

田端文士村記念館
(JR山手線・京浜東北線「田端駅」より徒歩2分)

開館時間 10:00~17:00
(入館は16:30まで)

休館日 月曜日(祝日の時は火・水曜日)
祝日の翌日(土日の時は翌火曜日)
年末年始(12/29~1/3)

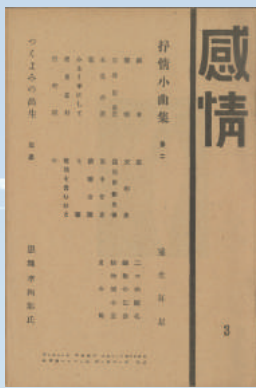
入場
無料

【主催・お問合せ】(公財)北区文化振興財団 田端文士村記念館 ☎03-5685-5171 【共催】東京都北区



星屋の田端自宅(離れ)

写真提供: 室生犀星記念館



雑誌「感情」3号(大正5年8月)

当時の詩壇に一石を投じた詩の雑誌。犀星の元集まった中野重治・堀辰雄ら32冊を刊行し、3号からは田端で発行。



雑誌「驢馬」(大正15年5月)

犀星の元に集まった中野重治・堀辰雄らが創刊。5月特別号には犀星、朔太郎、龍之介も寄稿した。

大正2(1913)年、犀星の抒情詩に感動した朔太郎が手紙を送り、生涯を通じた交友が始まりました。大正5(1916)年、二人は当時の詩壇への反逆の精神をもって雑誌「感情」を創刊、また、処女詩集を発行するなど詩人としての地歩を固めます。大正14(1925)年、朔太郎が田端に転入すると、芥川龍之介を加えた三人で交流するなど充実した日を過ごしました。やがて二人が詩壇での地位を築くと若き作家たちが集まり雑誌「驢馬」を創刊します。大正末期「詩のみやこ」として最盛期を迎えた田端を、資料や交流の中から紹介します。

室生 犀星

詩人・小説家

明治22(1889)年～昭和37(1962)年
石川県金沢市出身。生後まもなく養子に出され不遇の少年期を過ごす。

高等小学校を中退し、金沢地方裁判所に給仕となった頃から文学に目覚め上京、貧困と放浪の作家生活に入る。大正5(1916)年、田端に転入し雑誌『感情』を萩原朔太郎と発行、また第1詩集『愛の詩集』を刊行。その後、小説家として新境地を開く一方、堀辰雄や中野重治らの若手育成にも功績を残す。北区立田端中学校校歌の作詞も行った。俳号・魚眠河。

萩原 朔太郎

詩人

明治19(1886)年～昭和17(1942)年
群馬県前橋市出身。父は医師で経済的に恵まれた環境で育つ。前橋中学校に入学したころから文学に励み、卒業後五高、六高、慶応大学などを転々する。大正6(1917)年に第1詩集『月に吠える』、大正12(1923)年『青猫』を刊行。口語自由詩の実質的な完成をみる。鋭敏な感覚で現代人の心の奥底を描き、詩壇にゆるぎない地歩を築く。田端には大正14(1925)年、室生犀星の世話で居住。



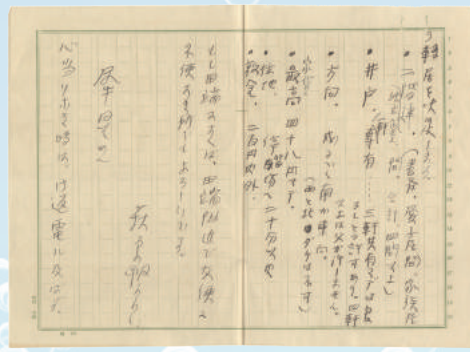
萩原朔太郎

第1詩集『月に吠える』
(大正6年2月/感情詩社・白杜社共刊)

日本近代詩史に残る2つの詩集は田端の「感情詩社」(犀星自宅)で発行された。

室生犀星

第1詩集『愛の詩集』
(大正7年1月/感情詩社)



萩原朔太郎 室生犀星宛書簡

前橋文学館蔵

大正14年3月23日

朔太郎が田端での家探しを犀星に頼んだことが読み取れる。間取り、方位、家賃、駅からの距離などの条件が細かく書かれている。※11/20までは直筆資料を展示し、11/22以降は複製に変更となります。

講演会

「朔太郎の白と、銀色の母 ～孫から見た萩原朔太郎と萩原葉子～」

10/30(日) 14:00開演 13:30開場

日本近代詩を確立した詩人・朔太郎とその娘である小説家・萩原葉子のエピソードや作品などについてお話しします。

講師: 萩原朔美

(萩原朔太郎令孫・前橋文学館館長)

会場: 田端文士村記念館 多目的ホール

申込: 下記宛先に往復はがきで

10/17(月)必着。

1通につき1名(同居家族に限り2名まで可)。

往信用裏面: ①講演会 ②住所 ③氏名(2名の場合は全員分)

④電話番号 ⑤年齢

返信用表面: 応募者の住所・氏名



常設展示スペース

リニューアル情報

「知っておきたい田端文士村」をコンセプトとして田端で暮らした文士芸術家や出来事などをわかりやすく紹介する常設展示スペース。新たに、芥川龍之介が大正3(1914)年田端転入前後、親友・井川恭に宛てた書簡(複製・原本は大阪市立大学寄託資料)が加わりました。文士が集まる以前の田端の様子、“雨だと休みたくなる”通学路のことなど、若き日の龍之介の生活振りが溢れています。また、期間限定で芥川龍之介、中島敦、太宰治、森鷗外らのキャラクターが繰り広げる異能力バトル漫画『文豪ストレイドッグス』とのコラボレーション展を開催。描き下ろしイラストの展示、記念グッズの販売や文京区立森鷗外記念館との連携も予定しています。詳細はホームページで随時お知らせします。



「芥川龍之介 田端の家復元模型」



©2016朝霧カフカ・春河35 KADOKAWA刊

(公財)北区文化振興財団

田端文士村記念館



TABATA Memorial Museum of Writers and Artists

〒114-0014東京都北区田端6-1-2 ☎03-5685-5171

URL: <http://www.kitabunka.or.jp/tabata/>

表 写真提供: 右・室生犀星記念館/左・前橋文学館



※駐車・駐輪場は隣接の有料施設をご利用ください。

【交通】

JR山手線・京浜東北線
「田端駅」北口より徒歩2分